

令和7年度 敦賀高等学校定時制 学校関係者評価書

(問)

- ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
- ・スクールポリシーを踏まえた評価となっているか
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。

(意見を聞いた方)

福井県立敦賀高等学校 定時制 教育振興会 会長 橋本 敦夫 様

○教務 授業への積極的な取り組みの指導と基礎学力の向上

- ・毎日の全教職員による『打ち合わせ会』を通じて、生徒の出欠や授業の様子を共有し、個々の支援に結び付けている取り組みは、本校の強みとして定着している。
- ・授業面では、全教科でアクティブラーニング型の授業やタブレット等ICT機器の活用、1・2年でのチームティーチングと習熟度別指導を進め、『授業わかる度』は93.2%と高い水準を維持している。今後も基礎・基本の徹底と学び直しの機会を計画的に設け、生徒の学習意欲と自己効力感をさらに高めていただきたい。
- ・『出席状況満足度』は79.5%にとどまっていることから、遅刻・欠席がちな生徒への声かけ、個別最適な学習・生活支援、保護者との連携強化をより一層図ることを期待する。

○生活支援 基本的な生活態度を育成し、規律ある集団生活の定着

- ・挨拶の励行や身だしなみの指導に粘り強く取り組み、校則遵守は100%と非常に良好である。一方、挨拶の励行は89.1%で目標未達であった。引き続き、登校時の玄関指導や場面に応じたロールモデル提示を通して、良好な人間関係づくりにつながるコミュニケーションの基礎を育てほしい。
- ・保護者の生活支援方針への満足度は94.4%と高く、学校行事や生徒会活動で活躍の機会を確保している点を評価する。新入生については、全教職員での観察と情報共有を徹底し、早期の適応支援につなげていかれることを望む。

○進路支援 進路目標の早期設定と望ましい職業観の育成

- ・ハローワークや若者サポートステーション等との連携、LHR・探究でのキャリア教育、外部講師による『地元職業人と語る会(60人60色)』や就業体験など、多面的な取り組みを継続している。しかし、具体的な進路目標を持つ生徒は43.2%、進路情報・資料への満足度は75.0%と、いずれも目標値に届かなかった。引き続き、学年早期からの三者面談やガイダンスの機会を増やすとともに、個々の状況に応じて小さな目標設定と振り返りを積み重ね、成功体験を可視化する支援(ポートフォリオの活用等)を強化されたい。地域との協働プログラムを継続・発展させ、職業理解と自己理解の両面から進路決定を後押しすることを期待する。

○保健指導 心身の健康に対する意識の向上と教育相談の充実

- ・年数回の個別面談や、スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)との連携体制を整え、相談機会の確保に努めている。『教育相談のしやすさ』は63.7%で、昨年度より低下し目標にも達していないが、複数のSOSを受け止め初期対応につなげた点は評価できる。SC(週1日)とSSW(概ね週2日・不定期)の配置状況も踏まえ、必要生徒への面談枠確保と情報共有の精度向上を一層推進していただきたい。県への配置要望の継続、教職員研修の充実、『打ち合わせ会』での観点共有など、組織的な相談体制の強化を望む。

○交通安全指導 交通安全についての意識の確立と規則遵守の徹底

- ・全校集会やホームルームでの指導、自転車の乗り方講習会等を徹底し、交通ルール遵守は100%と良好である。今後も警察・自動車学校等との連携を強化し、定期的な講習会・講演会を継続して、『命の尊さ』を伝える教育を積み上げてほしい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

多様な背景や学習状況をもつ生徒が在籍する中、個別最適な学びと協働的な学びの両輪で教育活動を設計し、基礎・基本の定着、生活習慣の確立、キャリア形成の支援、そして心身のケア体制の強化を、学校評価の結果に即して着実に前進させている。次年度に向けては、①『打ち合わせ会』を核とした情報共有と早期支援、②基礎学力の学び直し・習熟度別指導の継続、③地域・関係機関と連動したキャリア教育の深化、④SC・SSWの活用と相談体制の拡充、⑤交通安全教育の継続的強化、を全教職員が一丸となって推進されたい。教育振興会としても、学校と連携しながら取組を支えていきたい。